



# NEWS LETTER かながわ

2007年7月20日 第1号

発行：神奈川支部

連絡先 e-mail: jacdp-kanagawa@hotmail.co.jp

## 巻頭言

神奈川支部長 関戸 英紀

3月中旬から9月末までの予定で、アメリカのアリゾナ大学に研修に来ています。したがって、先の総会と研修会を欠席させていただきました。ここにお詫びいたします。

さて、神奈川支部は、現在140名を超える会員を擁し、東京支部に次ぐ大きな支部です。横浜・川崎の2つの政令指定都市をもつこの神奈川県において、私たち臨床発達心理士はどのような役割を果たすことができるのでしょうか。また、どのような役割を期待されているのでしょうか。学校教育にかかわっている立場から申しますと、PDD・LD・ADHD 等の発達障害のある(疑われる)児童生徒、およびその担任教師に対する巡回相談が必要であると痛感しています。また、週1回の巡回相談であっても、保護者の協力を得ながら、evidence-basedな支援が行われれば、十分な成果を期待できることも、実感しています。さらに、神奈川県では、小中学校ばかりでなく、高等学校に在籍している発達障害の疑われる生徒に対する支援にも動き出しています。これらのニーズにこたえていくことも、私たちの役割の1つではないでしょうか。そのためにも、今後は、行政との情報交換も検討していかなければならないと考えています。

## 神奈川支部研修会報告

テーマ：「学校教育をめぐる連携のあり方を考える」

日時：2007年6月2日午後1:30～4:30

場所：横浜市青少年育成センター

講師：「地域と共に歩む特別支援教育」 小野 學氏（川崎市立東菅小学校）

「専門性を活かし合うパートナーシップの構築に向けて」 竹谷 志保子氏（発達支援センターうめだ・あけぼの学園）

当日は46名の参加者が集まり研修会が開催されました。前半は、学校の内部の立場から、小野學氏より『地域と共に歩む特別支援教育』について講演を伺いました。様々な個性や障碍を持った子どもが増加している現状の中で、東菅小学校では、障碍の有無に関係なく、学校長が特別な教育的ニーズがあると判断した子どもに対して、学校、医療、福祉、地域が一体となって支援を行う支援体制を構築した経過が報告されました。地域も巻き込んだ支援ネットワークが構築できた背景としては、学校全体でこれらの児童の把握、共通理解、協力体制、教師の意識改革に取り組み、専門家とも密に連携を取り、また保護者や地域にも積極的に学校の取り組みを説明し支援要請した結果であるということでした。今後、さらに支援体制を充実していきたいということでしたが、地域・生活に根ざした教育を行うためにも顔の見える日常のつきあいが重要であるというお話や、臨床発達心理士である教員は、専門家を迎える基盤作りを担っていく必要があるのではというお話が印象的でした。後半は、地域の学校との連携を進める発達支援センターという学校の外の立場から、竹谷志保子氏より『専門性を活かし合うパートナーシップの構築に向けて』の講演を伺いました。学校との連携の基本姿勢は、児童の理解と具体的対応の支援、学校全体の取り組みとなるような連携、保護者の学校教育の問い直しのきっかけ作り、保護者と学校との関係支援ということでした。外部療育機関の具体的役割としては、情報交換をしながら幼児療育から学校教育への移行支援を行う、アセスメントを実施し子どもの共通理解を進める、心理・PT・OT・ST等の専門職を派遣し発達支援を行う、個々の事例での個々の連携からさらに諸機関間のネットワーク作りを行い地域の特別支援教育システムを充実させる、ということでした。お互いに一生懸命だけれども力を活かさない現実の実践例もあげられながら、中心は子ども・家族であるという視点や地域・時代を作るという中心軸をずらさず、個々人および機関が自他の専門性を互いに認識しながらビジョンを持ち、専門性が活かせるように工夫しあうことが必要で、そのためのキーパソンが必要だということでした。学校の内と外からのお話でしたが、それぞれの立場の参加者各人がこれから何を意識し行動しなければならないかを考えさせられた研修会でした。

## 神奈川県支部研修会についてのアンケート結果

\*参加者 46 名中 24 通回収させていただきました。

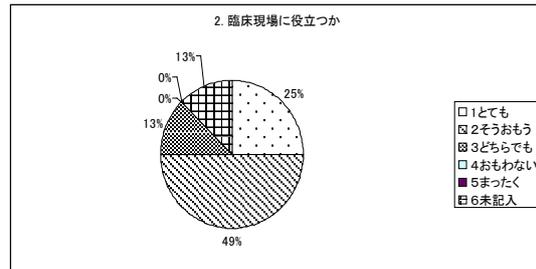
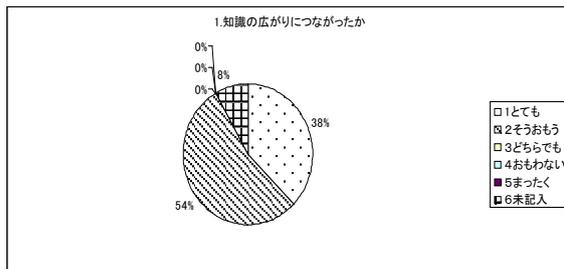
### 1. 今回の研修会の内容について

#### 1)「自分の知識の広がりにつながりましたか。」(5 択)

この質問に対する回答者全員、「とてもそう思う」「そう思う」の回答でした。

#### 2)「臨床現場に役立つものでしたか。」(5 択)

この質問に対しても回答者のほとんどの方が「とてもそう思う」、「そう思う」の回答でした。



#### 3) 内容へのご意見をお聞かせください。(自由記述)

特別支援教育の課題である「現場と専門家との連携」ですが、小野先生の小学校の実践と竹谷先生の専門機関の実践と両方の立場のお話を聞くことができました。地域との連携の方法、それぞれの立場の違いからくる連携の難しさなど実践の中で直面する問題について研修することができたことが良かったという感想をいただきました。

### 2. 今後の神奈川支部で希望する研修会・研究会について (自由記述)

- ・障害児者の青年期、成人期の生活支援、健康管理等ライフステージごとの支援(4)
- ・アセスメント、心理検査法について(3)・病理(精神障害との合併等)について
- ・特別支援教育について、行政と学校現場の立場でのディスカッション
- ・教育機関(保育園含む)と臨床発達心理士との連携について、事例をもとに
- ・臨床発達心理士の役割や最近の動向・発達障害と非行、反社会的行動
- ・家族支援(虐待も含む)・保育
- ・筑波大学附属久里浜養護学校の自閉性障害に特化した理念と実践について

### 3. その他研修会についてお気づきの点があれば(自由記述)

- ・子育て中の会員が参加しやすいよう(保育園託児)研修会は土曜日の開催を希望

### 4. 現在関わっている専門分野、業務内容(自由記述)

療育相談(6)、大学教員(2)、就学前療育(2)、養護学校教諭(2)、乳幼児健診、小学校教諭、発達障害児コミュニティケア、不登校、引きこもり、通所施設看護婦